

# 漢詩神奈川

第 27 号

神奈川県漢詩連盟  
事務局

神奈川県海老名市  
浜田町16-9

TEL-FAX  
046-233-7641

発行人 三村公二  
編集人 高津有二

## 心を合わせこの難局を乗り切ろう！

神奈川県漢詩連盟会長 三村公二

平成から令和へと時代が移り、大きな発展が期待されていた正にその時に、湖北省武漢

に端を発するコロナ騒動が世界中に蔓延して今や我々の日常生活に大きな影を落としている。武漢と言えば有名な黄鹤楼がある所で、崔顥の詩の頸聯に「晴川歴歴漢陽樹」とあるように、長江を挟んで武漢市街の対岸にあるのが黄鹤楼である。いわば漢詩の故郷と言ってもよい所からもたらされた感染症である。

この騒動を受けて、神漢連では、二月以降の全ての行事を中止し、五月末に予定していた総会も手紙で皆さんのご意見をお聞きする



三村公二会長

るといふ形をとらざるを得なかった。しかし、そのおかげで何時もは総会に出席されない方々、サークルに所属していない方々から

のご意見をいただくことができ、この点はかえって良かったと思っている。

このような困った現状にもくじけず、神奈川の会員の皆様方はたくましい。集まって会議・講義が出来なければメールのやり取りで意思の疎通を図り、PCを持っていない人にはFAX・郵送で対処する等といる工夫を凝らしている。その極めつきが「ZOOM会議」で、PC／スマホでお互いの顔を見ながら議論ができる便利なシステムである。私もベテランの方のご指導を受けて初めて参加したが、メールでの文章のやり取りだけでは得られない点が多くその効果は絶大である。

又、全会員に連絡せず申し訳なかったが、コロナ禍克服を目指して令和二年神漢連漢詩大会を開催した所、七十五首の力作が集まった。玉井／城田両先生に審査をお願いし、その結果をこの会報とHPに掲載したのでご覧いただきたい。

所で、総会の挨拶文で、PC漢詩(神辞会)や、「搜韻」で代表されるネット情報の検索手法が漢詩界の将来にとって改革の重要な要素になるかもしれないと申し上げた。この長期の休み期間を通じてもPCが出来るか出来ないかで世界が大きく変わることを実感した。

しかし、逆に心配な点がある。法政大学の遠藤星希先生によれば李白の「静夜思」は中国では詩題が「夜思」、起句が「床前明月光」で、日本の「牀前看月光」とは異なっており、しかも「明月光」の方が趣があると評価されているという。日本が李攀龍の「唐詩選」をベースにしているのに対し、いろいろな理由で中国は孫洙の「唐詩三百首」を採用し、現在にいたっている為に生じた相違点である。

「搜韻」では当然のことながら起句は「床前明月光」となっている。これは「搜韻」の情報が日本の漢詩界の考え方に必ずしも適合していないという一例である。PC得意の人達がPC知らずの古い世代の方々が丹念に辞書を引き、或いは古今東西の成書を紐解いて詩を理解してきた地道な努力を見習う事を忘れ、又、自分の頭で考えて理解することを怠っているとしたこの「静夜思」のような事例を見逃してしまふ事になる。これではせっかく優れたツールを活用していても知識が上滑りになつて真の実力の向上につながらないのではないかというのが私の危惧する所である。

# 連盟の行事

## 令和二年度第十五回神漢連総会

### コロナ禍に遭遇し

### 文書による総会を実施!

事務局長 高津有二

中国武漢に端を發した新型コロナウイルスが世界的に猛威を奮い、四月に全国に緊急事態宣言が發出され、長い人生でも経験したことのない長期間の外出自粛を余儀なくされました。漢詩の古典を勉強された方、作詩に没頭された方、夫々に対応されたことでしょう。

五月二十七日(水)に開催を予定していた令和二年度神漢連総会は、コロナ感染拡大防止の観点から、「文書による総会」とさせて頂き、会員の皆さんの意見を集約することと致しました。

送付資料としては、「令和元年度の総括と令和二年度の活動に向けて」と下記の「令和元年度決算案と令和二年度予算案」ならびに「令和二年度役員・運営委員(案)」を会員全員に送付しました。総会開催を予定していた日までに会員の過半数を超える百五十六名の方から回答を頂き、審議事項については回答者の全員の方の賛同を頂きました。また、多

くの会員の方から今後の神漢連の活動について、貴重なご意見を頂き御礼申し上げます。

総会が開催できず、十分なご説明が出来ませんでしたので、資料の主要点を記します。

・令和二年度の活動に向けての会長挨拶では、新しい流れとしての「PC漢詩」について述べています。PCにより、漢詩を取り巻く裾野が拡がり、一方では「搜韻」に代表されるネット情報が充実している中で、従来の手書き作詩に代表される地道な努力との融和の重要性を述べています。

・神漢連の会員数については、自然退会の会員もあり、令和元年度末で二百二十七名です。

・令和元年度・二年度の活動内容について、特出すべき事項としては次の通りです。

- ① 漢詩中級講座(指導員養成講座の名称変更)の第二回(講師、後藤淳一先生)を実施した。
  - ② 吟行会は三年ぶりに十一月六日、石川先生にご参加頂き、大磯町「鳴立庵」で実施した。
  - ③ 講演会は、十一月十三日、高芝麻子先生の「漢詩の四季、日本の四季」を開催した。
  - ④ 九月「台湾漢詩ツアー」を実施し、十三名が参加。現地の漢詩団体と交流会を実施した。
  - ⑤ 神漢連叢書「七言絶句ここから一步(上)」を六月に出版した。
  - ⑥ 令和二年度から、漢文法基礎講座(講師、高芝麻子先生)を実施予定である。
- ・令和元年度決算は下記の通りですが、今後単年度決算では赤字の恐れがありますので、来年度は会費改訂を提案する予定です。

## 令和元年度決算・令和二年度予算

令和元年度田原基金決算書			令和二年度一般会計予算書			令和元年度一般会計決算書				
区分	費目	金額	区分	費目	金額	区分	費目	金額		
収入	前年度繰越	916,575	収入	前年度繰越	147,255	収入	前年度繰越	228,015		
	七絶頒布等	524,637					年会費	544,000		
支出	七絶編集他	467,954		行事費	608,000		行事費	462,000		
	指導者研修	46,285		その他	192,000		その他	199,280		
残	次年度繰越	926,973		経常費	558,000		経常費	404,871		
令和二年度田原基金予算書			支出	行事費	755,000	支出	行事費	563,137		
区分	費目	金額	支出	その他	98,000	支出	その他	170,777		
収入	前年度繰越	926,973		残	次年度繰越		60,855	残	次年度繰越	147,255
	七絶頒布等	795,000								
支出	七絶印刷研修等	742,090								
残	次年度繰越	979,883								

令和二年度人事

☆理事

玉井幸久 石川省吾 古田光子  
岡田泰男 横山真吾 桜庭慎吾

☆執行理事

三村公二(会長) 水城まゆみ(副会長)  
中島龍一(副会長) 高津有二(事務局長)  
香取和之(事務局次長) 室橋幸子  
川上修己 飯島敏雄 瀧川智志  
新井治仁 大森冽子 山口幸雄  
牛山知彦

☆監事

松井秀人 鈴木正敏(新任、三水七歩会)  
特別相談役 岡崎満義  
相談役 住田笛雄  
顧問 石川忠久 窪寺啓  
浅岡清明 池上一利

☆運営委員

家吉幸二 犬飼堯 岩波弘道  
芝 公男 細江利昭 安田茂  
上田尤子(新任、金星会)  
(注)郵送した総会資料の中でお名前が欠落してしま  
いたので、お詫ひして訂正致します。  
竹村文孝(新任、令和会)  
飯田政治(新任、詩林会)  
内山義浩(新任、詩游会)

(参考)

竹林舎  
玉井幸久 飯沼一之 城田六郎  
古田光子 住田笛雄 桜庭慎吾

令和二年度神漢連漢詩大会

— コロナ禍克服を目指して —

コロナ禍による外出自粛が続く中、それぞ  
れの「思い」を漢詩に残し共有することを目  
的に「神漢連漢詩大会」が開催され、連盟会員  
から実に七十五首もの応募がありました。  
竹林舎の玉井、城田両先生の審査により、  
以下の通り入賞・入選者が選出されました。

最優秀賞

春夜蟄居

春夜蟄居

三水七歩会 大谷明史

病鬼跳梁迫衆民

病鬼跳梁 衆民に迫る

萬家肅肅不遊春

万家肅々として春に遊ばず

箏聲一曲彈何處

箏声一曲 弾ずるは何れの処ぞ

開牖中天皎玉輪

牖を開けば 中天 玉輪皎たり

時折陋屋に聞えていた琴の音を自肅の静夜  
に回想し、古人の例に倣い、音楽に月を配し  
ました。「彈何處」「開牖」と古田先生に御批正  
戴き、想像外の榮譽に浴してしまいました。  
諸先生、関係の方々に深く御礼申し上げます。

優秀賞

憂瘟疫

瘟疫を憂う

三水七歩会 高橋純子

跳梁瘟疫是何因

跳梁す瘟疫はれ何の因ぞ

不見不聞愁殺人

見えず聞こえず人を愁殺す

韶景江都陌頭寂

韶景の江都陌頭寂たり

鎖門獨送落花春

門を鎖して独り送る落花の春

詩林会 川久保普美子

庚子天咎

庚子天咎

天癘掩全土

天癘全土を掩い

東風不告春

東風は春を告げず

默然任時去

默然として時去るに任せ

暫緩養閑身

暫緩 閑身を養う

好文会 久川憲四郎

新型冠狀病毒襲來

新型冠狀病毒の襲來

大瀛航海一樓船

大瀛航海の一樓船

病毒攻來金港邊

病毒攻め來たり金港の辺

赤壁曹公燒舸艦

赤壁の曹公舸艦を焼くも

瘴魔不滅二千年

瘴魔滅せず二千年

(註) 正史によれば、赤壁の戦いで曹公(曹操)軍は兵  
士等が疫病に罹りし軍船を焼払い撤退とある。

佳作

宇野次郎、大森正泰、工藤一也、  
五嶋美代子、久川愛子、森川誠一郎、安田 博  
(以上七名)

入選

上田尤子、齋藤 護、芝 公男、  
竹村文孝、中山洋子、浜辺又八、三浦昭二、  
安田 茂、横溝喜久男、萬谷美次(以上十名)

尚、両先生とご相談して役員は入賞・入選  
から除外しました。(牛山知彦)



# 会員の活動

## 漢詩サークルと漢詩鑑賞会の一年間の活動

事務局長 高津有二

昨年度も漢詩鑑賞会、漢詩サークルでお世話頂いた講師の先生方、役員の方々に衷心より御礼申し上げます。

令和二年に入り、世界中がコロナ禍に見舞われ、神漢連でも二月以降は集会、講義が出来なくなりました。その間、役員の方々を中心にPC・スマホを活用したメール、あるいはZOOM会議等、活動を継続できたことに對して、皆さんのご協力に感謝申し上げます。サークル活動では、昨年は三つのグループに分けてサークル交流会を実施しましたが、日頃は顔を会わせない方との交流も出来て、好評でした。今後も工夫を凝らして相互交流の場を計画したいと思います。

鑑賞会では講師の先生方の並々ならぬご苦勞の賜物で、毎回、盛会裏に開催できており、漢詩に接する憩いの場として、会員各位から大変な好評を得ています。昨年は講師の先生の交代もありましたが、これまでの先生方に御礼申し上げますとともに、鑑賞会の新たな展開に期待するところ大であります。

### 令和元年度サークル活動状況

2020/4/1 現在

開始年、区分	サークル名	会員数	代表者	指導者	開催月・曜日	主な会場	特記事項
H19、1期	金星会	7	上田 尤子	飯沼 一之	偶数月・第2火	かながわ県民センター	・吟行会(寒川神社)実施。・自由題、次韻の詩の勉強。 ・自詠自書展に2名出品。
H20、2期及びH25、7期	三水・七歩会	11	中島 龍一	古田 光子	奇数月・第3水	八洲学園大学(高島町)	・新人1名入会(東京在住) ・腰痛治療の1名1年ぶりに復帰。 ・作詩は課題詩で実施中。
H21、3期	好文会	7	高津 有二	城田 六郎	偶数月・第3木	かながわ県民センター	・元年10月、開設満10周年、60回記念例会を開催。(この間一度も休会なし)・元年12月「好文會詩集(第二集)」を發刊。
H22、4期	詩游会	11	川上 修己	住田 笛雄	偶数月・第3火	神奈川県立公文書館	・吟行会(年1-2回)、詩集(不定期)、カレンダーの発行(過去5年間毎年)。 ・律詩などを鑑賞する「詩季の会」を1月から発足。他サークルからも参加。
H23、5期	五友会	8	飯島 敏雄	住田 笛雄	偶数月・第2木	かながわ県民センター	・例会には詠題詩と自由題詩の2作品提出。 ・年1回会員の中野さんの茶室で煎茶会と批評会を実施。
H24、6期	以文会	13	香取 和之	桜庭 慎吾	奇数月・第3木	かながわ労働プラザ	・元年6月江ノ島で吟行会実施。
H24、岳精会	岳精会漢詩研究会	8	家吉 幸二	城田 六郎 三村 公二	偶数月・第2水	岳精流日本吟院 総本部(川崎市)	・例会は「真・善・美」岳精会詩吟合吟後開始。 ・8月と12月の親睦会では自詠自吟披露などにより懇談。
H26、8期	八起会	13	芝 公男	中島 龍一	奇数月・第3木	横浜市開港記念会館	・会員の詩力は着実に向上。3年連続で全国的な漢詩大会の入賞、入選者を出す。
H27、9期	九詩期会	14	山口 幸雄	古田 光子 川上 修己	奇数月・第2木	八洲学園大学(高島町)	・コロナウィルスのため3月例会を中止。結成以来初めて。 ・満5年を記念して詩集の刊行を計画中。
H28、千代田岳精会	千代田岳精会漢詩研究部	13	犬飼 堯	桜庭 慎吾 香取 和之	偶数月・第1木	明治生命新宿ビル	・4月に千代田岳精会と交流会を開催。
H28、10期	十期会	10	細江 利昭	高津 有二 川上 修己	奇数月・第3木	横浜市泉公会堂 横浜市戸塚公会堂	・詩集第2号を編集(内部資料)。
H29、11期	詩林会	8	飯田 政治	中島 龍一 飯島 敏雄	偶数月・第2水	会員マンションの集会所(川崎市)	・例会後毎回川崎駅近くの居酒屋で懇親。
H30、12期	干支会	5	安田 茂	三村 公二 新井 治仁	奇数月・第2木	地球市民かながわプラザ(本郷台)	・例会後毎回親睦会を開催。
R1、13期	令和会	14	竹村 文孝	水城まゆみ 松井 秀人	奇数月・第1火	横浜市西区福祉活動拠点「フクシア」高島町	・元年9月発足第1回例会。3月はコロナウィルスのため中止。
計	14サークル	135			奇数月7、偶数月7		

### 漢詩鑑賞会一覧

注)各鑑賞会は6月迄、集会方式では休会中。尚、B及びCは主としてメール方式で開催。

名称	講師	曜日・時間	会場	問合せ先	概要
鑑賞会A	桜庭 慎吾	第4木 13:15-15:45	地球市民かながわプラザ(本郷台)	瀧川 智志 045-516-1234	宋詩を順次鑑賞。北宋では蘇軾、南宋では陸游、楊萬里、范成大等を予定している。
鑑賞会B	住田 笛雄、水城まゆみ、川上 修己	第4金 13:30-16:00	県民センター	牛山 知彦 080-5521-6735	中国名詩選(井波律子著)の鑑賞と同名詩の次韻での作詩。
鑑賞会C	城田 六郎、中島 龍一、新井 治仁、香取 和之	第4火 13:30-16:00	かながわ労働プラザ	香取 和之 0467-48-5446	「七言絶句ここから一步」に基づき、毎回12首を白文から読み解く。
霧笛女子会	古田 光子	偶数月、第1火 13:00-15:00	県民センター	水城まゆみ 0463-87-2657	女性詩人、女性の関係する詩を中心に解説。

注)メールアドレス、瀧川:takigawa.ty@jcom.zaq.ne.jp 牛山:koryu.kitsuan@gmail.com 香取:katorikazuyuki@gmail.com 水城:mmizuki@kfz.biglobe.ne.jp

## 漢詩鑑賞会A

— 宋詩鑑賞始まる! —

漢詩鑑賞会Aは、桜庭慎吾先生の「宋詩鑑賞」が始まり、第一回定例会が一月二十三日に開催されました。初回到相応しく、中学・高校時代のエピソードをふくむ先生の自己紹介の後、これから始まる宋詩の特徴についてのご講義でした。概要以下の通りです。

漢詩は中国唐代に完成の域に達し、詩の入れ物が出来上がった。この完成した形式(絶句・律詩・古詩)をうけつぎ、宋代では、あたたかも文章で物語るような古詩(文を以て詩となす)(例:白楽天の「長恨歌」)、或いは、思想・思索・理屈を述べる詩(理を以て詩となす)(例:同「中隱」)に做った詩が好んで作られた。一方、詩の感情の面では、メロディーにあわせて言葉をうめる詞(ツ)が好まれた。

唐代と宋代の詩の違いは、一言でいうなら、唐代は情熱的、宋代は冷静である。宋代初期の詩人で、冷静・平坦・素直な詩風の歐陽脩と梅堯臣により宋代の詩の方向が定まり、宋代の代表詩人蘇軾に継承された。

時代背景の説明を含む、準備万端、言語明晰な先生の名講義は、一同(四十名)清聴のうちに終了しました。

第二回は、二月開催の予定でしたが、新型コロナウイルスのため中止となり、次回開催が待たれています。(瀧川智志)

## 漢詩鑑賞会B

鑑賞会Bは、中国名詩集(井波律子著)の輪読による漢詩鑑賞とともに、参加者が名詩に次韻して作詩を行い講師陣(住田・水城・川上の各先生)から批評を伺い、作詩力を養うことがその特徴です。

他の鑑賞会と歩調を合わせ、二月以降は会場での開催を中止している。しかし、その再開見通しがつかない状況下、少しでも活動を継続して詩力向上を目指すべく、講師および参加者各位のご協力のもと、作詩添削について、四月以降、以下の試みに挑戦しています。

- ① メールによる参加者からの「詩稿の提出」
- ② 一斉メールによる「詩稿一覧の配信」
- ③ 一斉メールによる参加者間での「互評」意見交換
- ④ メールによる各講師からの「批評の集約」
- ⑤ 一斉メールによる「批評加筆版詩稿一覧の配信」
- ⑥ 一斉メールによる参加者・講師間での「批評に対する質疑応答」意見交換
- ⑦ オンライン会議による「批評解説会開催」

オンライン会議には、メールにはない効果があり、何より元気なお互いの顔が見えるので参加者の繋がりを取り戻すことが出来ました。今後は、「輪読による漢詩鑑賞」を含む完全な形で例会開催も検討していきたいと考えています。(牛山知彦)

## 漢詩鑑賞会Cは再開しました

鑑賞会Cは、毎月十二首の七言絶句を講師の解説により白文から読み解き鑑賞する勉強会であり、登録会員は四十五名(内四十名はメール使用者)である。コロナウィルス蔓延の影響で、他の鑑賞会と同様に二月以降八月迄は集会型の例会は中止となった。しかし何とか毎月学びたいという声も強く、主としてメールを活用して四月から再開した。

- ① 鑑賞会Cの毎回のテキストは、詩の白文・読下し・語釈・通釈からなる詩本体、語釈の補足と詩人略伝からなる。これらはメール又は郵送する。
- ② 各員はこれらテキストを学習のうえ、質問をメール又は郵送で講師とやりとりし、その後講師はこれら全応答を整理して全員に連絡する。

メール型講義の利点: 課題は次の通りである。  
① 利点: 多くの人がいる会場での質問は、躊躇する人が多いが、メールでの講師とのやりとりは抵抗感が少なく、質問は集会型より活発である。

② 課題: テキスト配布型では集会型と異なり、能動的に学習する必要がある。講師は、詩の鑑賞の観点、詩にまつわる史跡・典故など、従来口頭で解説している内容を簡潔にまとめ事前配布する必要がある。  
尚、今後共、皆様のご要望に応えるべく講師・スタッフ一同工夫していきたい。(香取和之)



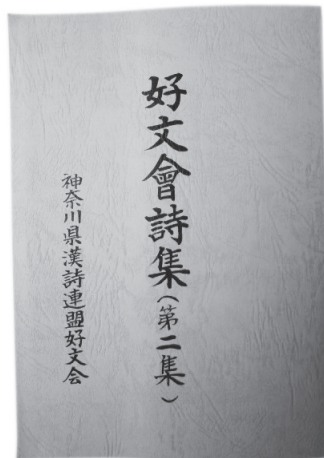
### 好文會詩集(第二集)発刊しました

二〇〇九年、神漢連第三回初心者入門講座で初めて顔を合わせて、同年秋から二カ月に一回の漢詩の勉強会を始めて二〇一九年十月、第六十回好文会を開催することが出来ました。

この間、一度も欠かすことなく継続して、開催できたことは会員一同の誇りです。当初、十一名でスタートしましたが、鬼籍に入られた方もあり、現在も七名の会員が、二カ月に一回の詩稿提出に悪戦苦闘しています。

五年前に他のサークルに先駆けて、最初の詩集を発刊した時は、時期尚早の意見もありましたが、こうして好文会設立十周年を記念して第二集を発刊できたことは、会員一同にとって、望外の喜びであります。

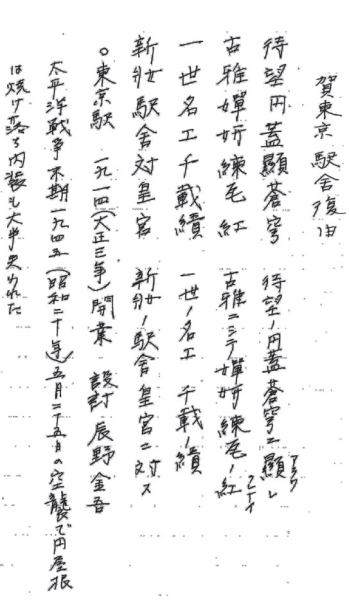
漢詩の出来栄への評価は、皆様にお任せするとして、会員にとっては、掲載した漢詩を讀み返すことによって、好文会会員として、歩いてきた人生のひとコマを、将来懐かしく思い出すことでしょう。(高津有二)



### 飯沼一之先生の詩をご紹介します！

金星会の講師である飯沼先生の五言絶句『小庭花花』十首、『野鳥』十首、七言絶句『雜詠』十二首、『羈旅』十五首、計四十七首をこの度、金星会のメンバー全員が頂いた。素晴らしい作品ばかりなので四十七首全てをホームページに掲載していただいた。是非ともご覧いただきたい。齢を重ねますます精神的なご活躍に、一同背中を押される思いである。

手持ちの用紙に硬筆で詩をしたため、詩集にまとめる先生のスタイルは、その場で感じた心の動きを直接読み手に伝えるとともに、作詩は誰にでも気軽に楽しめることを示してくださっているかのようだ。ここでは先生の作品の中から、身近な東京駅を題材にした「賀東京駅舎復旧」をご紹介したい。詩に書き添えられた解説により、読み手はより深く詩を味わうことができる。先人の詩や歴史に関する豊富な知識と深い人生経験に裏打ちされた先生のご指導は的確で、少人数で学べることを幸せに思っている。(上田尤子)



### 漢詩サロン『詩季の会』発足

詩游会では結成後、十年を経過し、「そろそろ律詩に挑戦しよう」との声が高まってきたのをきっかけに、以下の狙いで『詩季の会』を組織しました。

- 律詩の構成と展開を名詩を鑑賞しながら内部講師の講義を題材に討論して学習。
- 神漢連のサークル横断的に会員を募り、作詩以外の漢詩の味わい方も交流する。

○神奈川の郷土漢詩集である「大磯竹枝」や范成大の「四時田園雜興」等四季のうた、暮らしの漢詩を讀み、詩力向上を図る。

講師に住田先生と池上先生にお願いし、第一回を労働プラザで八サークル十七名の参加を得て一月二十一日に開催、漢詩解釈の奥深さ、熱のこもった詩論の展開など四時間を超える活況でした。開催日は原則として奇数月の第三火曜日ですが、今回は、県施設の都合により、九月まで延期となっています。それでも、休会中は、参加者に計百七十頁程の資料を郵送し、予め自習いただき、再開後の質疑に充てる予定です。特に、押韻、平仄、対句構造などをカラーで立体的に把握できるように工夫した資料としました。ただ、あまり「学びの場」を強調しすぎず、いわば「漢詩のサロン」をイメージし、自由闊達にみんな喋る機会とし、漢詩を楽しみながら詩力向上を図っていきたいと思っています。(板本健作)

# 会員だより

## 漢詩と故郷

好文会 久川憲四郎

午後の半日休を申請し、通勤鞆に漢和辞典とダレ漢を入れ、昼食も摂らずに赤坂の職場から各線を乗り継ぎ、元町中華街駅で下車、石段を駆け登り近代文学館へ。二〇〇九年六月四日午後一時過、神漢連主催「第三期初心者入門講座」教室に飛び込む。既に家内(久川愛子)は受講中でその隣席に座る。演壇では故・中山清先生(初代神漢連会長)が「京都三条の糸屋の娘……目で殺す」(教本・ダレ漢一八頁)で起承転結の大切さを独特の話しぶりで講義中。あれから十年、城田六郎先生ご指導の下、好文会で詩作に励んでいます。三多でなく三少のため中々上達しません。でも不思議なもので、年六回の定例会用漢詩が一度も欠くことなく提出でき、会の仲間そして指導者・城田先生の御批正を得て、曲がりなりにも詩が完成していきます。私は高知県出身で三〇歳のとき上京しました。故郷への思いは一入で、故郷を詠んだ詩が多くあります。中国の詩人達にも地方や故郷を詠んだ詩が多く見受けられるのは、故郷には詩の心を誘うものがあるからでしょう。

名勝入野松原與堀内雍喜頌徳碑  
沙汀十里黒松連 沙汀十里黒松連なる

防遏風潮四百年 防遏風潮四百年ぼうあつ  
勝景欲遺軍命抗 勝景遺さんと欲し軍命抗こぼ  
賭身德行古碑傳 身を賭す德行古碑伝う  
(註)昭和二十年終戦直前、米軍上陸阻止に備え軍用材として伐採命令、松原は存亡の危機に陥った。

## 神奈川漢詩連盟と私

三水七歩会 高橋純子

神漢連に入会して半年が経つ。それまで独学だった私は、漢詩を学ぶ者にとりこれほど恵まれた環境があったのかと驚いた。

入会して一か月後の昨年十一月、大磯・鴨立庵へ吟行会があり、初めて柏梁体に挑戦する。次の週は、神奈川近代文学館で講演会。日中間での季節の捉え方の違い等、興味深い内容だった。その一週間後には、三水七歩会へ。一首ごとに評価し、互いの詩論を交換し合う講義は初めてだ。幾通りのも表現方法を提言される古田光子先生を始め、中島龍一先生、先輩方の熱心な姿勢に刺激を受けて帰途についた。

私は月に一度、湯島聖堂の石川忠久先生の教室に通っている。いつも自分の勉強不足が原因なのだが、添削で真っ赤になった詩に、しょんぼりと帰ることが多かった。

ある秋の日、講義を終えた直後、「この字を『紅』に変えるといいんだよ。」と後ろから声がした。「私の詩の事だ、教えて下さってるんだ！」と分かった時は驚いた。その声の主は、住田笛雄先生だったのだ。と

でも嬉しかった事を覚えている。これが最初のご縁で、その三年後には神奈川漢詩連盟にお世話になることとなる。いくら感謝しても、しきれないのである。

## 令和会入会挨拶

令和会 鈴木潔司

山居 道元禪師

西來祖道我傳東 釣月耕雲慕古風  
世俗紅塵飛不到 深山雪夜草庵中

この度、御縁を賜り令和会の末席を汚しております。群馬県利根郡みなかみ町にある曹洞宗嶽林寺という山寺を守っております。曹洞宗は寛元二年(一二四四)、大本山永平寺開山道元禪師が中国に留学、浙江省寧波にある天童寺住持如浄禪師より曹洞宗の法を受継ぎ日本に伝えた事に始まります。宗派は禅宗、約八百年の歴史、全国に約一万五千の寺院があります。

元々が中国から伝わった教えの為に行事で使う法語はほとんど漢詩です。修行時代から漢詩は学んできたものの苦手にしてしまいました。知りあいの老僧から勉強が足りないという苦言を頂いた事もしばしば。その為、しばらく前から漢詩を積極的に学ぼうという気持ちになりこの会をご紹介頂きました。

三村会長さんはじめ先生方の漢詩への情熱、会員の皆さんの熱心で前向きな姿には驚きました。寺の都合で参加出来ないことも度々ですがこれからも学んで行きたいと思っております。ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



台湾便り(その三)

三水七歩会 山岡健郎

街角のカフェで珈琲と読書のひと時。

本は昭和初期の日本統治時代、新竹縣の一吟社「大新吟社漢詩集」の復刻版。当時台湾の人口六百万人中、三百もの吟社があり、漢詩隆盛期であった。台湾総督児玉源太郎も詩作に長け、台北郊外の別邸に台湾の文人墨客を招き詩文を唱和したそう。新聞の投稿欄は日台の詩人が漢詩を発表する重要な場となっていた。

当時文芸とは漢詩を作り書にし吟唱することで、日本の為政者は植民地支配の摩擦軽減に漢詩を利用した。詩集の前書きには、「反帝國抗議精神の詩が多数」とあり、当時の世相が窺われる。では詩集から一首ご紹介。

「中秋」余成山

中秋佳景月融融 淡淡風輕一色空  
正是素娥添美色 詩童擊鉢興無窮

転句の素娥は月に住む仙女、昭和九年の中秋の名月はさぞ美しかったのだろう。

昨今は台湾でも漢詩の勢いは衰えているが、新聞には詩の投稿欄もあり、秋には文芸賞への応募も盛んと聞く。時代は変わったが、私のような初心者でも、漢詩を通して台湾人と交流できるのは幸せなことである。さあ、待在家裡 讓我們閱讀漢詩！

学士会理事長杯に玉井幸久さん選ばれる

高津有二

二〇一九年度学士会理事長杯に裁錦會最優秀賞として、玉井幸久理事の「念日本國憲法」が受賞されました。じっくりお読み下さい。

念日本國憲法

日本國憲法を念う  
平成三十一年三月 燧翁 玉井幸久

君不聞人將死其言也善

君聞かずや人の將に死せんとす  
其の言や善しと

少聽羸殘野老辯

少く聴け羸殘野老の弁を

昭和乙酉敗戰年

昭和乙酉敗戰の年  
天翳り地傾きて緯經断たる

我儂若冠在江湖

我儂は若冠江湖に在り  
祖國の難苦双眼に留む

軍師百萬邊土殫

軍師百万辺土に殫れ  
腫膿幾千溟海に尽く

臙膿幾千溟海盡

臙膿幾千溟海に尽く  
城市邑落劫灰堆く

城市邑落劫灰堆

城市邑落劫灰堆く  
山河構橋燼煙滿つ

山河構橋燼煙滿

山河構橋燼煙滿つ  
皇民は猶お不屈の魂を持すも

皇民猶持不屈魂

皇民は猶お不屈の魂を持すも  
奈ともする無し広島長崎の殄ざるを

無奈廣島長崎殄

無奈廣島長崎殄  
此の時聖断九重に下り

此時聖断九重下

此時聖断九重に下り  
一億涙を飲んで戈偃に就く

一億飲涙就戈偃

一億涙を飲んで戈偃に就く  
空しく墜つ大東亜共榮の旗

空墜大東亞共榮旗

空しく墜つ大東亜共榮の旗  
泣いて聴く玉音の忍び難きを

泣聽玉音宣忍難忍

泣いて聴く玉音の忍び難きを  
忍ぶと宣うを

忍ぶと宣うを  
讎將府を開く帝都の曲

乍逆理非筆鋒  
自作驕戎宣傳僕  
私信被檢公論禁  
良書見焚老儒逐  
濫定新法法廷開  
即絞將軍丞相獄  
鬱鬱慷慨皇土充  
人士扼腕仰天哭  
回首陰風侵岸鬢  
偏注兒童自虐毒  
年改丙戌更驚殺  
忽告憲法于渙發  
不聞議會討論  
唯有佞儒諂諛說  
條條怪見翻譯痕  
項項誰疑逼令物  
拔牙惑心欲亡國  
孰人敢掉憂國舌  
老壯嚙口心底期  
時到當自一輕拂  
豈圖四海風雲旋  
舊敵卻爲同盟匹  
只恨荏苒七十年  
未除敗戰屈辱極  
不拂陰陰枷懲罟  
何異舉國黠奴虜  
莫爲因循空偷安  
長受四隣他國侮  
寄語鬻堂法學儒  
七句訓釋弄荒蕪  
須論制定非彝事  
莫墮拘攣章句徒  
乍ち理非を逆にして筆鋒  
自ら驕戎宣傳の僕と作る  
私信は檢せられ公論は禁じられ  
良書は焚かれ老儒は逐わる  
濫に新法を定めて法廷開かれ  
即ち將軍を絞り丞相は獄す  
鬱鬱たる慷慨皇土に充ち  
人士扼腕して天を仰いで哭す  
首を回らせば陰風岸鬢を侵し  
偏に兒童に注ぐ自虐の毒  
年改まり丙戌更に驚殺す  
忽ち告ぐ憲法于渙發すと  
聞かず議會に討論の有りたるを  
唯有り佞儒諂諛の説  
條條怪しき見見る翻譯の痕  
項項誰か疑わん逼令の物なるを  
牙を抜き心を惑わし國を亡ぼさ  
んと欲するも  
孰人が敢て掉わん憂國の舌  
老壯口を嚙んで心底に期す  
時到れば當に自ら一輕払すべしと  
豈図らんや四海風雲旋り  
旧敵却つて同盟の匹となるを  
只だ恨む荏苒七十年  
未だ敗戰屈辱の極を除かざるを  
陰陰たる枷懲の罟を払わざるは  
何ぞ異ならん國を挙げて黠奴の  
虜たるに  
為す莫かれ因循空しく偷安し  
長に四隣他國の侮りを受けるを  
語を寄す鬻堂法學の儒の  
七句訓釈して荒蕪を弄するに  
須らく論ずべし制定非彝の事を  
墮す莫かれ拘攣章句の徒に



「新元号令和慶祝詩集」が刊行される

以文会 香取和之

昨年五月一日に新天皇が即位され、新元号が「令和」となったが、漢詩愛好者による慶祝の思いを漢詩にこめて、石川忠久先生のもと漢詩集が企画された。二松詩文会、全日本漢詩連盟、斯文会聖社詩会の三団体の共催で、百八十八首の応募があり、その中から百首が選別され、石川先生を中心に多少の手を加えて昨年十二月二十日に刊行された。元号を慶祝する漢詩集は未だかつてなく、画期的なことである。石川先生の玉詞を紹介します。

慶賀新元號令和 新元号令和を慶賀す

平成令和接 平成令和接ぎ

己亥改元初 己亥改元の初め

二百四十八 二百四十八(元号)

一千三百餘 一千三百余(年)

志精承國事 志は精にして国事を承け

心切奉皇儲 心は切にして皇儲を奉ず

雨露堯天大 雨露 堯天大に

衣冠舜日舒 衣冠 舜日舒ぶ

尚、神漢連会員では以下の諸氏の漢詩が採録された。相原一輝、新井治仁、石川省吾、牛

山知彦、岡崎満義、岡田泰男、尾崎明子、香取

和之、小嶋明紀子、

小林迪雄、住田笛雄、

高田宗治、高橋純子、

室橋幸子、横溝喜久

雄、横溝比呂美。



第七回漢詩朗読・創作発表大会

主催 桜美林大学孔子学院

以文会 大森冽子

令和二年一月二十五日に相模原市の桜美林大学淵野辺キャンパスで開催された。

冒頭、石川忠久先生(斯文会理事長・全国漢文教育学会会長)の「日本人と漢詩」と題する講演がありました。日本人は俳句や和歌と同じように漢詩を作れる特技、手段を持って豊かな言語生活ができるこの素晴らし伝統を守っていききたいという漢文教育への尽きない情熱を語られました。ここでは全九首の中、二首のみ紹介いたします。

富士山

柴野栗山

誰将東海水 濯出玉芙蓉

蟠地三州尽 挿天八葉重

雲霞蒸大麓 日月避中峰

独立原無競 自為衆岳宗

誰か東海の水を將つて濯い出だす玉芙蓉

地に蟠りて三州尽き天に挿みて八葉重なる

雲霞大麓に蒸し日月中峰を避く独立して原と競う無し自ら衆岳の宗となる

泊天草洋 頼 山陽

雲耶山耶呉耶越 水天髣髴青一髮

万里泊舟天草洋 煙横蓬窓日漸没

瞥見大魚躍浪間 太白当船明似月

雲か山か呉か越か 水天髣髴青一髮 万里

舟を泊す天草の洋 煙は蓬窓に横わりて日漸

く没す 瞥見す大魚の波間に躍るを 太白船

に当つて明月に似たり

「富士山」は広がり、高さ、スケールの大きさと自然に対しての畏敬の情があり、むしろかしい言葉が一つもない、うっとりとしてしまふと絶賛されました。また、海の詩の傑作とされる規則のない古詩の「泊天草洋」は自然観がすばらしいこちらがナンバーワンかな。「泊天草洋」は規則のない古詩で「富士山」は型があるからどちらか一つを選ぶとなると先生大いに悩まれました。

五律の「富士山」では中国の詩で一番大事なのは対句である事、他の詩では漢字の字面が働くイメージを借りて利用する事など実りある講演でした。

今回の受賞者は朗読の部では室橋幸子さんが孟浩然の「春暁」で優秀賞に、創作の部では高橋純子さんが「雪徑看花」で最優秀賞に、板本健作さんが「過鴨立庵圓位堂」で、特別賞をそれぞれ受賞されました。



高橋純子

雪徑看花 六花細々玉粧朝

人絶林園古徑蕭 人絶え林園古徑蕭たり

私雪鳴禽忽飛去 雪を払いて鳴禽忽ち飛び去り

茶梅一點落寒條 茶梅一点寒條より落つ

# 漢詩と私



池上一利

うで、早速諸橋の大漢和を調べてみた。円覚寺開山の無学祖元の七絶の結句であった。実によくできた句で、字面も良く、声に出しても素晴らしい。全文は、

乾坤無地卓孤筇 乾坤地の孤筇を卓つる無し

喜得人空法亦空 喜ひ得たり人空にして法も亦空なるを

珍重大元三尺劍 珍重す大元三尺の劍

電光影裡斬春風 電光影裡に春風を斬る

読み下しは猪口篤志「日本漢詩(上)」

明治書院刊による

東京五輪の少し前、昭和三十年代の後半に連続TVドラマ「柔道一代」が放映されていた。御木本仲介の主演で、加納治五郎と講道館四天王をモデルとした柔道ドラマであった。

村田英雄の主題歌「柔道一代」も当時は随分はやっていた思い出がある。最後に芥川隆行のナレーションが入り、次週へと続くのだが、「芥川節」とも称された独特の渋い語り毎週魅了されたものだ。

その一話は「電光影裡に春風を斬る」とサブタイトルがつけられていた。細かい筋等はすっかり忘れてしまったが、番組最後の「デンコウエイリニシュンプウヤキル」のフレーズだけは、意味不明ながらも中学生であった筆者の心にも鮮明に焼き付けられた。

十代の後半は受験勉強(国語)の一助になる、との屁理屈をこねまわして漱石の小説を讀み漁った。確か「猫」だったと思うが、登場人物がしゃべる「電光影裡に春風を斬る」の科白を偶然みつけて驚いた。

忘れかけていた記憶が一気に蘇ってきたよ

解説を読むと、師がまだ宋に在る時、元兵に捕えられ、正に首を刎ねられようとしたその場で元兵に示した偈とある。兵は感悔し拝礼して去った、と続くが、修行を積んだ高僧の胆力を示すエピソードであろうか。

そんな背景も知らず、ただ単にナレーションの語呂の調子良さだけに惹かれていた自分に忸怩たるものがあつたが、後年漢詩を作るようになって改めて思い知らされるのは、声に出して読むことの大切さである。

昔より素読の理論的裏付けとして「読書百篇義自ずから見ると言われている。真にその通りであるが、同時に発声の大切さを教えたものである。目で見る、声に出す、耳から聴く、更に手を動かす(筆写)と五感を総動員して古人は、知識を身体に沁み込ませる努力を続けたのでは、と想像してみる。

最近ではボケ防止の一環として漢詩の精読、

暗記を心がけている。特に覚えるのが難しそうな七律を中心に選んでいる。前述した様子を音読を丹念に繰返し実施している。次に声を出しながら紙に書いてみる。それでいかに暗記は完了したような気分になるが、数日後に自己テストをしてみると結構各句でつまづき、思ったようにはスラスラ書けない事が多い。

一ヶ月位経過して完全に書けた詩は、一応身についたものとしているが、十首に満たない。いつか実作の折に役立つのでは、と今日もはかない努力を続けているが、そんな日はどうも来そうにない。

詩もかなり読んできたが、「電光影裡に春風を斬る」を凌駕するような結句には未だ出会えていない。



神漢連会員「令和元年度扶桑風韻漢詩大会」で活躍

秀作

山中尋友

山中友を尋ぬ

小嶋明紀子

獨衝微雨上羊腸

独り微雨を衝きて羊腸に上る

石徑秋花冷蕊黄

石径の秋花冷蕊黄なり

誰識山中高士在

誰か識る山中に高士在りと

幽居唯有野蔬香

幽居唯だ野蔬の香しき有るのみ

入選作品

大江静夜

大江の静夜

大石加代子

西風瑟瑟水邊樓

西風瑟瑟水辺の楼

眼下長江古渡頭

眼下の長江古渡の頭

一葦漂然棹歌去

一葦漂然として棹歌して去る

三更月白四圍幽

三更月白く四圍幽なり

雪後思友

雪後友を思ふ

仁上恵子

映雪月華方皓然

雪に映ずる月華方に皓然たり

獨吟孤酌抱愁眠

独吟孤酌愁を抱ひて眠る

子猷乘興夢中到

子猷興に乗じて夢中に到る

人跡有無探曉天

人跡の有無 曉天に探る

黄鶴樓聞玉笛

黄鶴樓に玉笛を聞く

村田瑛子

長江渺渺浪悠悠

長江渺々浪悠悠

一望碧空黄鶴樓

碧空を一望す黄鶴樓

玉笛還聞千載後

玉笛還た聞く千載の後

仙人已去舊雲流

仙人已に去れども旧雲流る



訃報

神奈川県漢詩連盟の会員 三上光敏氏は令和二年二月十六日に逝去されました。(享年八十歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

令和二年の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう!

詳細は、グーグル等で各大会を「検索」。

漢詩応募規定・用紙は、各大会のホームページからも入手できます。

第三十五回国民文化祭・みやざき2020

全国漢詩の祭典

十月二十四日(土) 宮崎市

自由題

応募完了

令和二年度全日本漢詩連盟「扶桑風韻」

漢詩大会

詩題「舟、船等」

応募期間 八月一日〜十月三十一日

応募資格は全漢詩連正会員及び準会員

第二十三回全国ふるさと漢詩コンテスト

十一月二十九日 表彰式 多久市

詩題「音、または、声」

応募締切 八月十五日

第五回漱石漢詩記念漢詩大会

十二月五日(土) 熊本市

自由題

応募完了

第十二回諸橋轍次博士記念漢詩大会

十一月十四日・十五日 三条市

自由題

応募締切 七月三十一日



## 神奈川県漢詩連盟 今年度の行事予定

左記の行事予定は、新型コロナウイルスの終息状況により変更することがありますので、九月初めに神漢連HPなどで再度ご連絡いたします。

### ●初心者入門講座

漢詩の鑑賞と実作(全五回の講義と実習、第十四期生)漢詩に関心のあるお友達に声をかけ、推薦して下さい

期 日 ①十月六日(火) ②十月十三日(火) ③十月二十八日(水)  
④十一月十日(火) ⑤十一月二十五日(水)

時 間 午後一時三〇分～四時三〇分

講 師 三村公二会長他 連盟役員

場 所 神奈川近代文学館中会議室

問合せ・受講申込(連盟事務局)

〒243-0412 海老名市浜田町十六ー九 高津有二

TEL/FAX 046-233-7641 Mail yutakatsuo626@nifty.com

### ●漢詩講演会

期 日 令和二年十一月十八日(水)

時 間 午後二時～午後四時

場 所 神奈川近代文学館ホール

講演者と演題 横浜国立大学准教授 高芝麻子先生 「阿倍仲麻呂と唐詩人」

参加申込 不要。会員以外も参加可能。無料。

### ●漢文法基礎講座

期 日 (前期)令和二年十月～令和三年三月、第三土曜日、全五回  
(後期)令和三年四月～令和三年九月、第四土曜日、全五回

時 間 午後二時～四時

場 所 かながわ県民センター、他

講 師 横浜国立大学准教授 高芝麻子先生

参加申込 要。受講料三千円。問合せ・申込先は「初心者入門講座」と同じ。

### ●研修会

来年一～三月の予定

### ●吟行会

来年一～三月の予定

## 編集後記

皆様、新型コロナウイルス感染予防の為の外出自粛の中、いかがお過ごしでしたか。

神漢連の行事も、春の「初心者入門講座」が秋以降に延期となり、「総会」も集会型でなく書面審議で行われ、皆様のご期待の大きかった石川忠久先生の「漢詩講演会」も急遽取止めとなりました。これらの為、予定していた記事数が減り、これまでは十六頁構成だった会報も今回は十二頁に縮小せざるを得ませんでした。

しかし、漢詩鑑賞会BやCは、集会型に代わり新たにメール活用型で既に再開し、また「令和二年神漢連漢詩大会」コロナ禍克服を目指して「I」が主として各漢詩サークル会員とのメールやり取りで急遽実現するなど、神漢連のたくましさを実感しております。

今回も、多くの方々から「会員だより」の投稿を頂き、更に「漢詩と私」では、池上一利先生から漢詩学習の為の貴重なアドバイスを頂いております。また、「令和元年度扶桑風韻漢詩大会」や「令和二年神漢連漢詩大会」を始め各種大会で受賞された方々の詩を掲載しています。今回も、会報最新号をぜひお楽しみください。

そして三村会長が巻頭言で述べているように「心を合わせてこの難局を乗り切ろう!」ではありませんか。  
(香取和之)